

2024年度3Q実績

2025年1月29日

- 1 良好な業務環境の中で中計施策も着実に進捗
特に国内ビジネスが増益を牽引し、連結業務純益は進捗率90%
さらに株式等損益の上振れにより、親会社株主純利益は進捗率98%
- 2 25/1月の政策金利引き上げにより、24年度の資金利益+200億円を見込む
一方、4Qには不採算アセットの売却による損失計上（24/11発表済）のほか、
予防的な引当の計上も含めた将来のリスクに備えるプロアクティブな手当も検討
- 3 将来の収益力向上に向けた手当を実施した上で、
中期的な目線としていた東証基準ROE8%を達成見込み

損益の概要

Plan for
Fulfilled Growth

	(億円)	24年度 1-3Q	前年 同期比	24年度 目標
1 連結粗利益		31,623	+4,360	
2 営業経費 (経費率)		▲17,730 56.1%	▲1,419 △3.7%	
3 持分法投資損益	進捗率	705	▲363	
4 連結業務純益	90%	14,598	+2,577	16,200
5 与信関係費用		▲1,580	▲234	▲2,600
6 株式等損益		4,312	+2,866	
7 その他		▲1,139	▲986	
8 経常利益		16,191	+4,224	17,100
9 特別損益		▲66	+1,055	
10 税コスト		▲4,700	▲1,819	
11 親会社株主純利益	98%	11,360	+3,431	11,600
12 東証基準ROE		10.1%	+2.1%	
13 株主資本ROE		13.8%	+3.7%	

- **連結粗利益**（為替影響: +500）
国内外における預貸金収益の増加に加え、
資産運用・決済ファイナンスビジネスの好調、
国内ホールセールビジネスの手数料収入増加等により増益
- **営業経費**（為替影響: ▲430）
インフレ影響（▲320）はあるも、
適切な経費コントロールの結果、経費率は大幅に改善
- **持分法投資損益**（為替影響: +40）
RCBC・VPBankの持分法適用会社化（+70）の一方、
23年度に計上したSMBACACにおける保険金受領の剥落
（▲450）により減少
- **与信関係費用**
OTO/SOF連結化等による海外銀行現法での増加に加えて、
海外大口先におけるコスト発生もあり増加
- **株式等損益**
政策保有株式の削減加速によって売却益が増加
（3,860、YoY+2,240）
- **その他**
過払債務に対する抜本的処理として、
利息返還損失引当金を一括計上（▲990）
- **特別損益**
23年度に計上した貨車リース事業売却損の剥落（+1,070）

(参考) 主要グループ会社の業績

Plan for
Fulfilled Growth

SMBC

	(億円)	24年度 1-3Q	前年 同期比	24年度 目標
1 業務粗利益		17,401	+3,944	
2 うち資金利益		11,766	+3,590	
3 うち投資信託解約損益		626	+566	
4 国内		5,963	+1,654	
5 海外		5,802	+1,936	
6 うち役務取引等利益		4,047	+348	
7 国内		1,793	+149	
8 海外		2,254	+198	
9 うち特定取引利益 + その他業務利益		1,564	+3	
10 うち国債等債券損益		136	▲76	
11 経費		▲7,828	▲586	
12 業務純益		9,573	+3,358	10,200
13 与信関係費用		▲157	▲138	▲450
14 株式等損益		4,111	+2,727	
15 その他臨時損益		292	+199	
16 当期純利益		10,135	+4,586	10,400

大口の子会社
配当
(+1,450)
⇒連結消去

SMBC以外の主要グループ会社

(左：24年度1-3Q実績、右：前年同期比)

(億円)	SMBC日興 ^{*1}		SMCC ^{*2}		SMBC信託	
業務粗利益	4,066	+586	6,111	+184	509	▲15
経費	▲3,328	▲320	▲4,087	▲9	▲318	▲16
業務純益	738	+266	1,982	+274	191	▲30
当期純利益	753	+311	▲215	▲740 ^{*3}	139	▲30

(持分法適用)

	三井住友DS ^{*4} 50%		SMFL ^{*5} 50%	
業務粗利益	356	+52	2,353	+187
経費	▲264	▲17	▲1,013	▲97
業務純益	92	+35	1,436	+125
当期純利益	39	+13	769	▲430

*1 SMBC日興アメリカおよびSMBC Capital Marketsの利益を含む内部管理ベース *2 SMBCCFの計数を含む

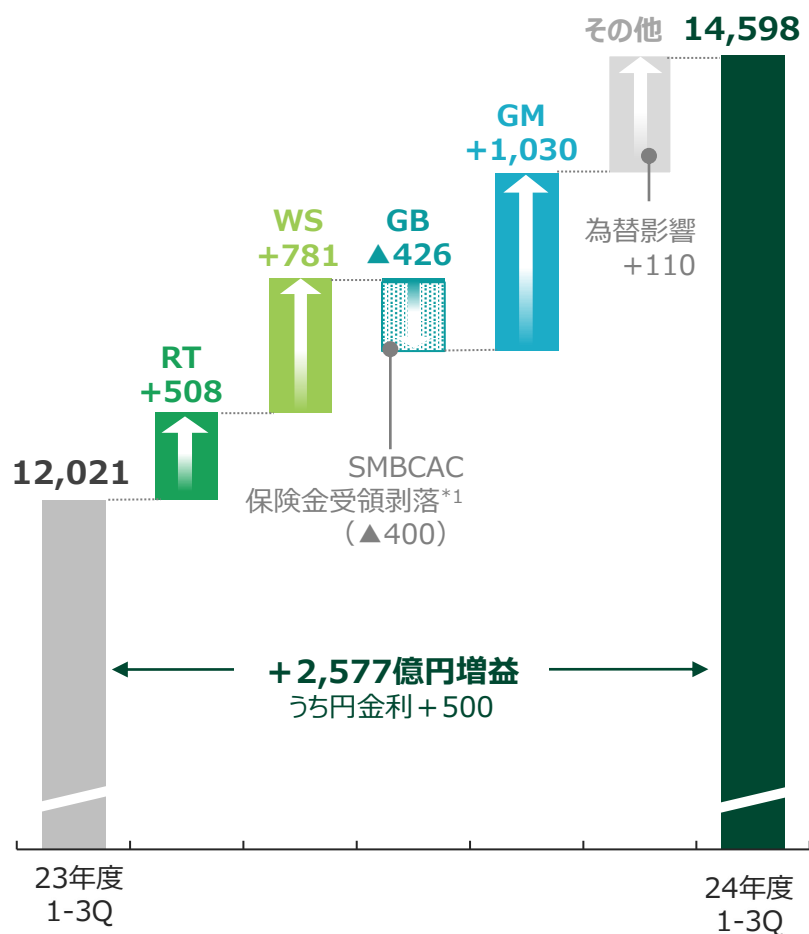
*3 過払債務の抜本的処理影響▲880億円を含む *4 SMBCグローバル・インベストメント&コンサルティングの計数を含む

*5 内部管理ベース

連結業務純益／親会社株主純利益の内訳

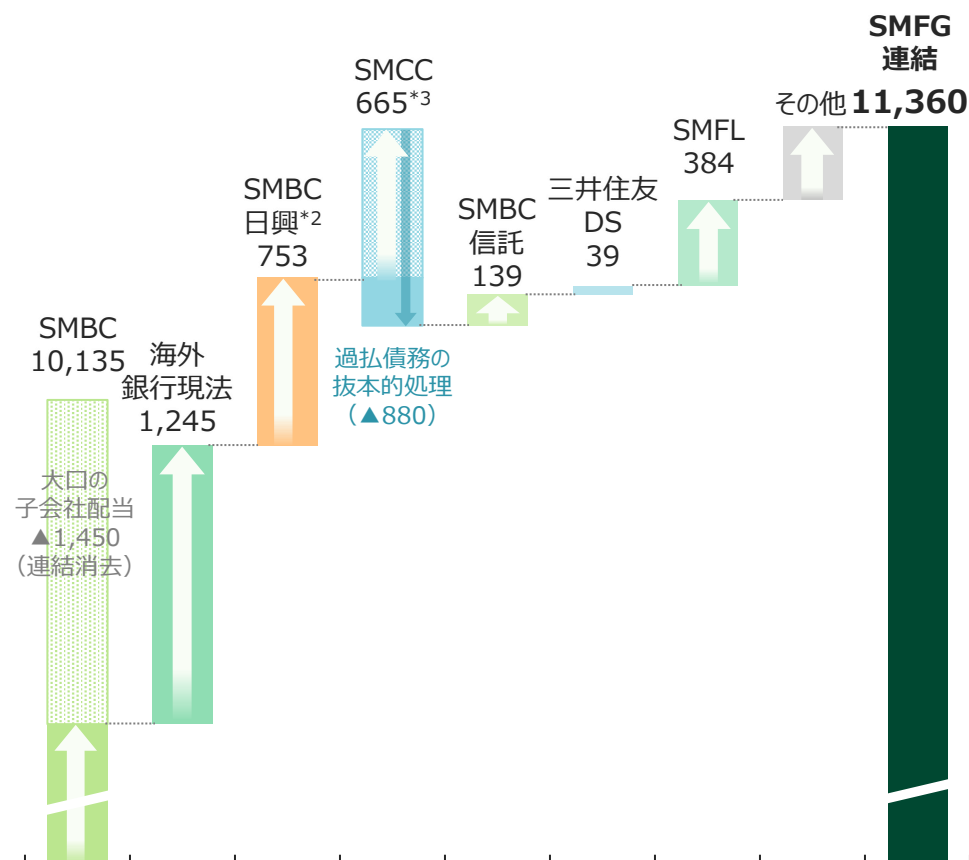
連結業務純益（前年比）

（億円）



親会社株主純利益（エンティティ別）

（億円）

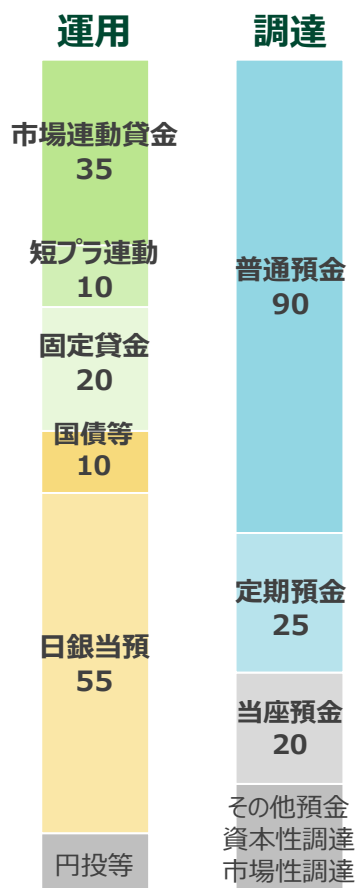


*1 財務会計上450億円から為替影響を除いた400億円をGB事業部門に賦課
 *2 SMBC日興アメリカおよびSMBC Capital Marketsの利益を含む内部管理ベース
 *3 SMBCCFの計数を含む（過払債務の抜本的処理影響を除く）

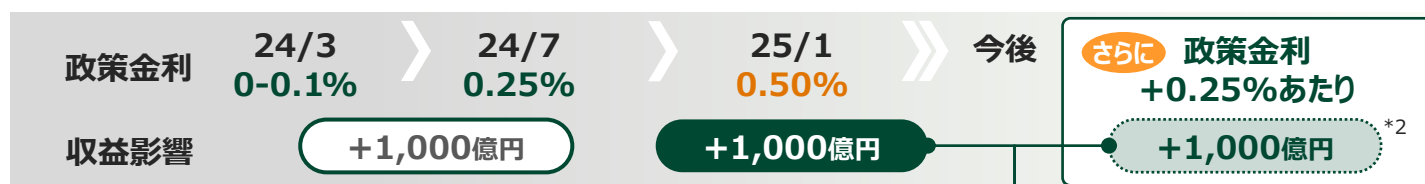
これまでの政策金利引き上げにより、資金利益は+2,000億円増加の見込み（うち、24年度は+900億円）
今後も、政策金利+0.25%あたり+1,000億円／年の増収効果を想定

円貨B/S 150兆円*1

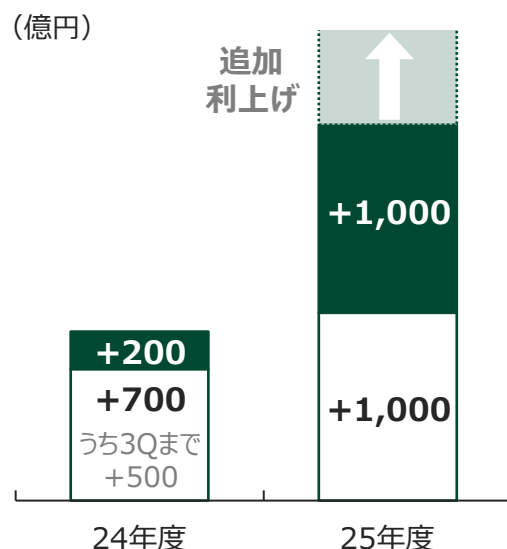
(兆円)



資金利益への影響（バランスシート不変の前提）



収益の計上時期イメージ



試算の前提

市場連動貸金	+25bps	普通預金	+10bps
短プラ連動	+25bps	定期預金	+10bps
固定貸金	+25bps		
国債	+25bps		
日銀当預	すべて+25bps		

<採算性向上に向けた取組>

貸出	- 資金需要は堅調（残高：YoY+7%） - ベースレートの上昇に加えスプレッドもYoY改善、引続き引上げに注力	預金	粘着性の高い低コストの流動性預金の獲得でアップサイドを追求
国債等	市場のトレンドを適切に捉え、機動的に残高をコントロール		Olive : 預金量30%増*3

*1 24/12末 *2 長期・短期金利ともに+25bpsずつ上昇の想定

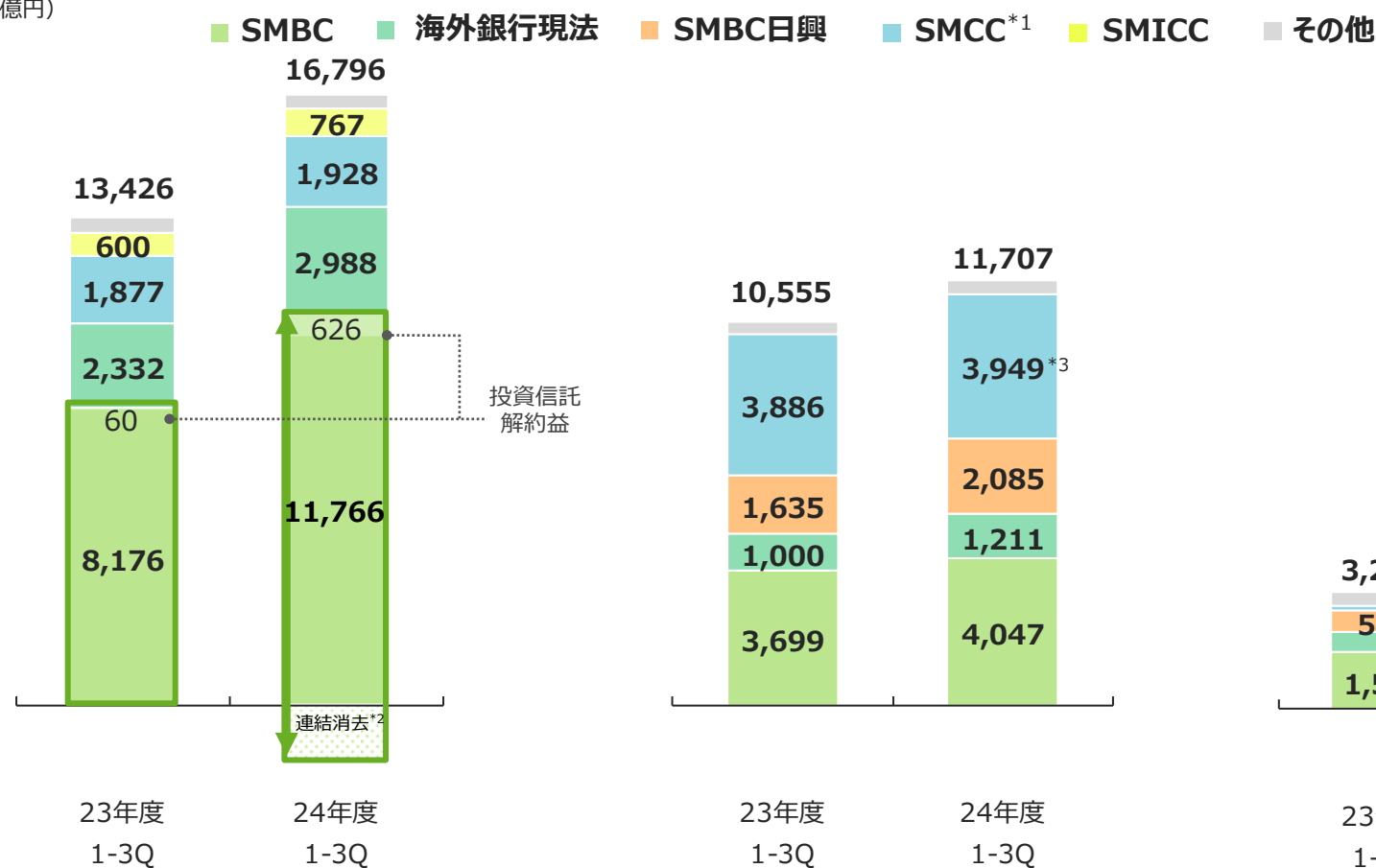
*3 Oliveリリース前後（22/3-23/2月、23/3-24/2月）の新規口座開設者の翌12月末預金残高の比較

資金利益は、国内外の貸金収益が残高増加・利回り改善により増益

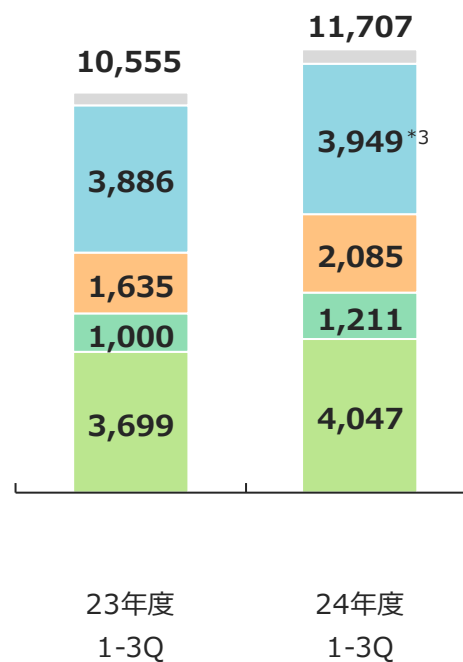
役務取引等利益は、資産運用ビジネスやローン関連手数料を中心に好調で、SMBC・SMBC日興が牽引

資金利益

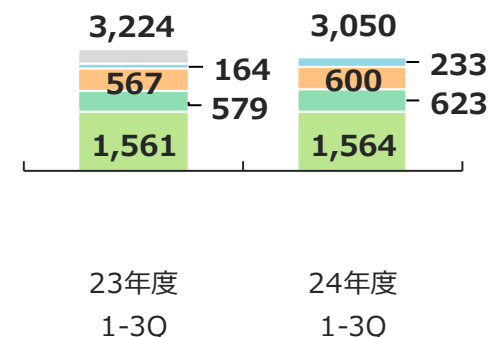
(億円)



役務取引等利益



特定取引+その他業務利益



*1 SMBCCFの計数を含む *2 一過性の子会社配当（1,450億円）を含む

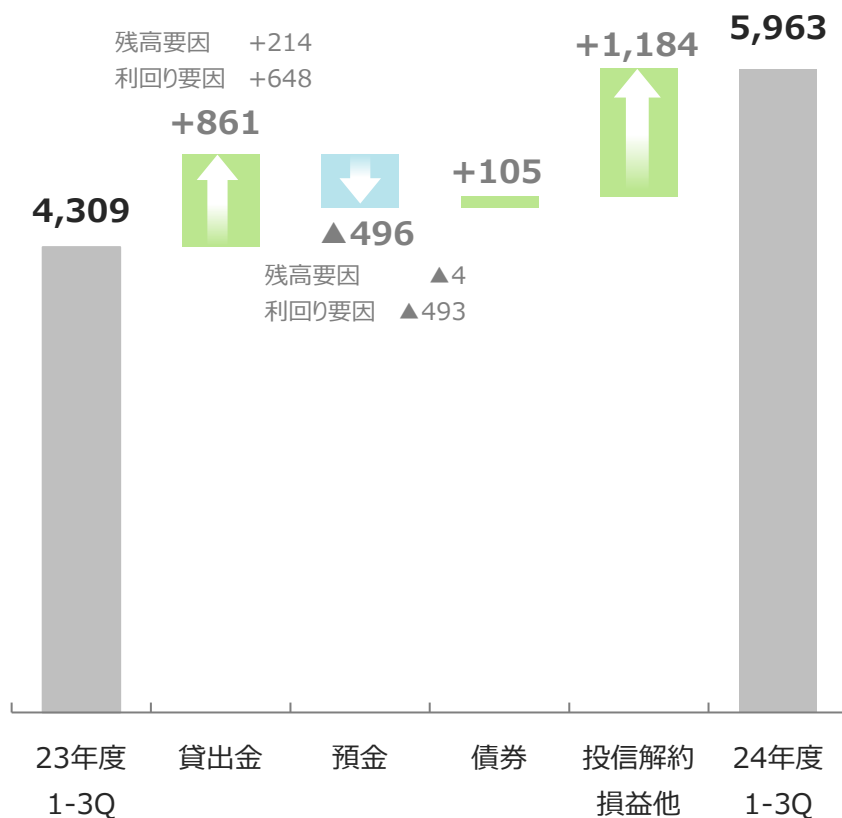
*3 集計方法の変更により210億円減少影響あり

(参考) 資金利益の増減要因 (BC単体)

国内

- 市場金利上昇による預貸金利回り改善と貸出金の残高増加により、預貸金収益はプラス
- 好調な株価や政策金利引き上げを背景に投資信託解約益等も増加

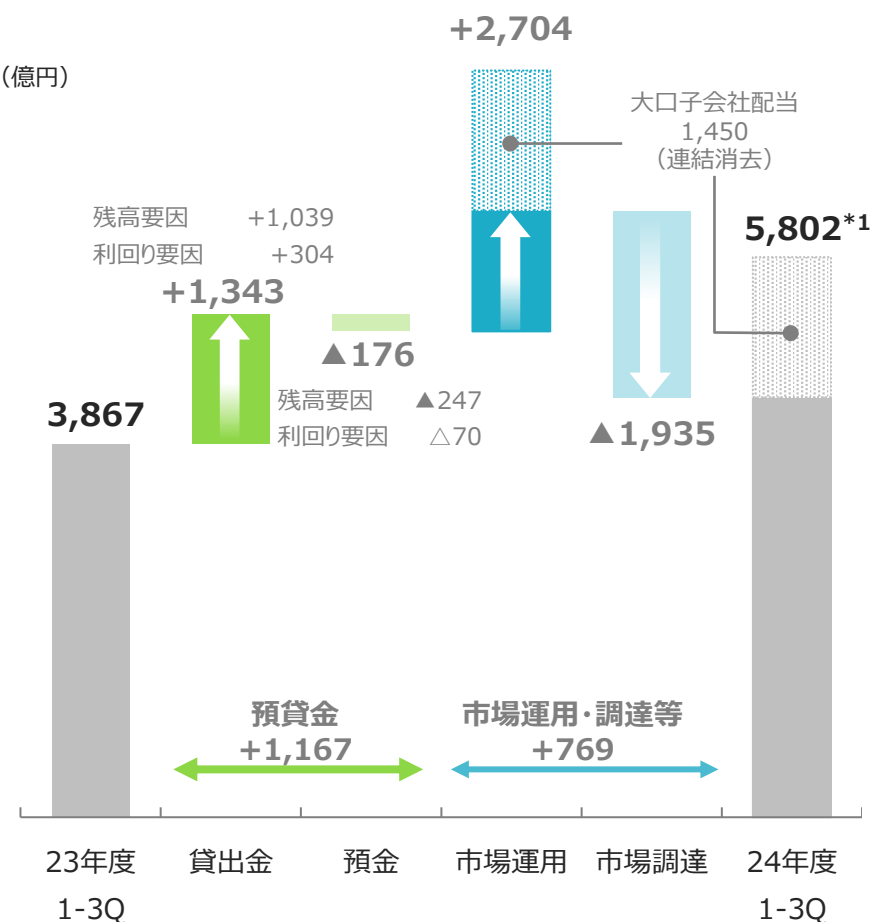
(億円)



海外

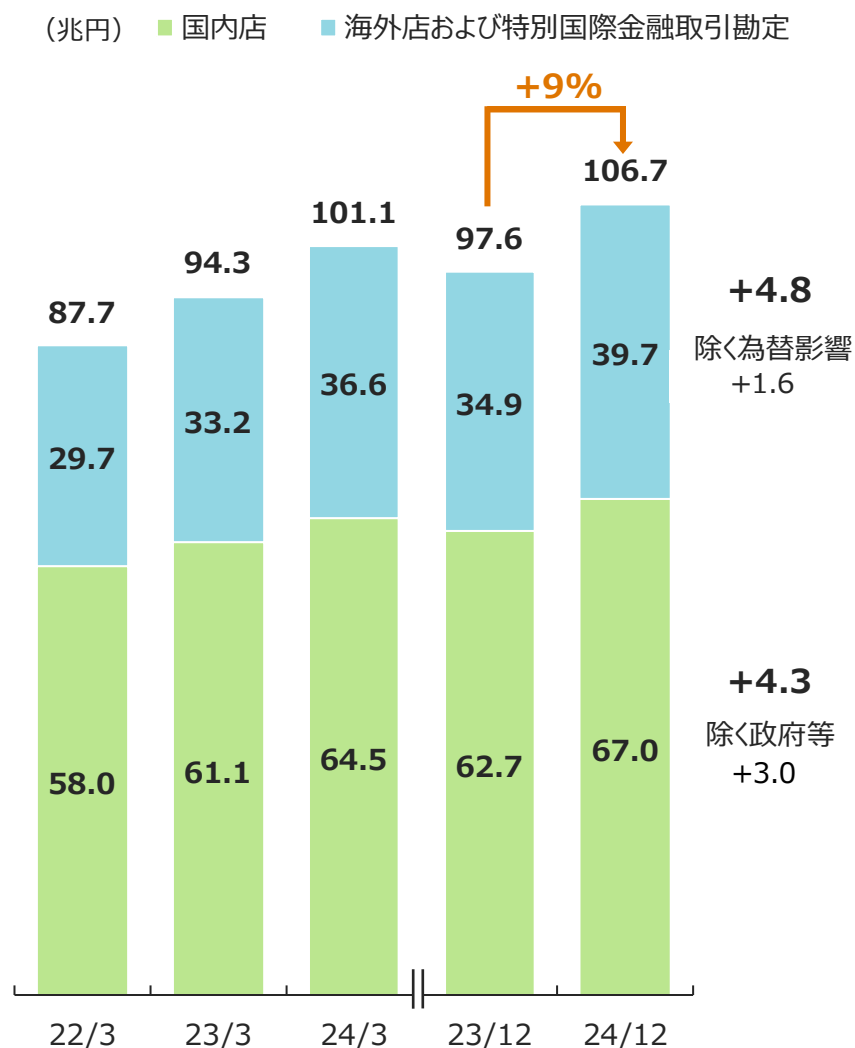
- 預金コストは残高要因で増加するも、貸出金の残高増加・利回り改善によって預貸金収益はプラス

(億円)



*1一過性の子会社配当 (1,450億円) を含む

貸出金残高



国内預貸金利回差

(%)	24年度 1-3Q	前年 同期比	1Q	2Q	3Q
貸出金利回	0.98	+0.15	0.92	0.97	1.04
預金等利回	0.05	▲0.05	0.01	0.05	0.09
預貸金利回差	0.93	+0.10	0.91	0.92	0.95

(参考) 政府等向け貸出金控除後

貸出金利回	1.00	+0.15	0.94	0.99	1.07
預貸金利回差	0.95	+0.10	0.93	0.94	0.98

期中平均貸出金残高・スプレッド*2

	平均残高 (兆円)		スプレッド (%)	
	24年度 1-3Q	前年 同期比*4	24年度 1-3Q	前年 同期比
国内貸出	62.1	+2.5	0.70	+0.01
除く政府等・SMFG向け	58.9	+1.8	0.73	+0.01
うち大企業	21.9	+1.4	0.60	+0.03
中堅・中小企業	22.0	+0.9	0.65	+0.02
個人	12.2	+0.3	1.21	▲0.03
GB運用資産 (億ドル) *3	3,472	+53	1.26	+0.03

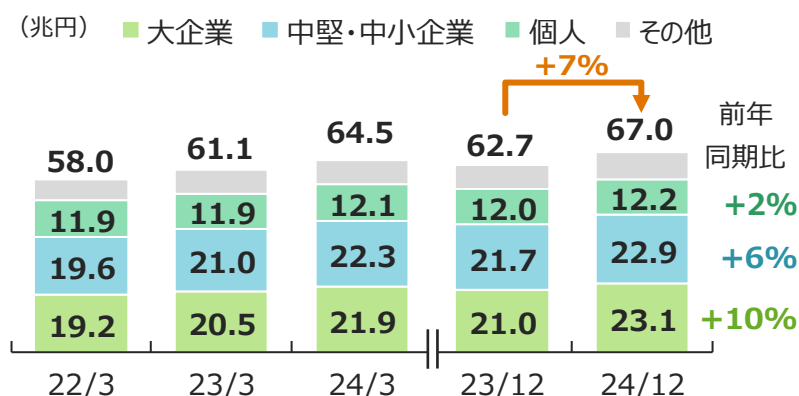
*1 BC単体 *2 内部管理ベース

*3 SMBC、主要現地法人、SMBC信託等の合算。貸出金・貿易手形・有価証券の合計。資金コスト対比のスプレッドを記載

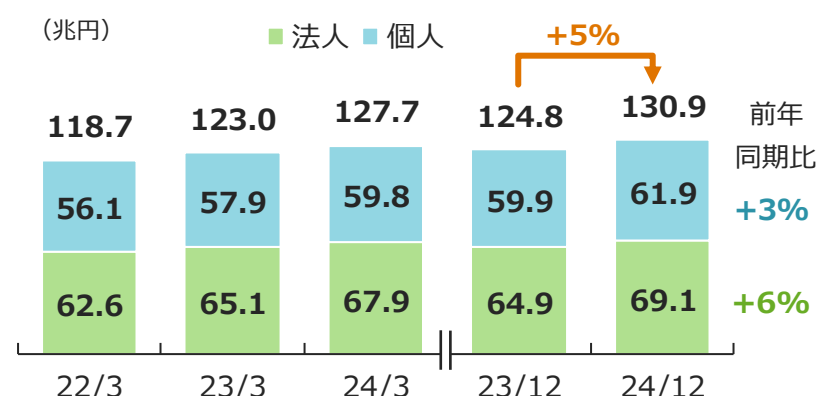
*4 為替影響等調整後ベース

活発なコーポレートアクションの捕捉に加えて運転資金需要の増加もあり、大企業向け貸出が大幅に増加
金利が上昇する中で預金獲得に注力したことで、預金残高は個人・法人ともに前年比増加

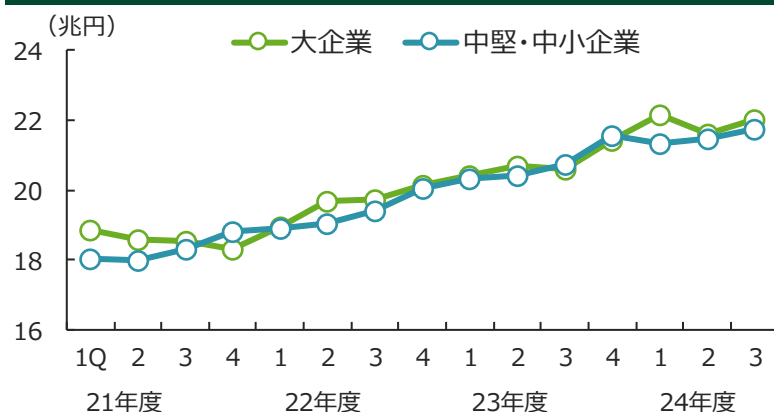
貸出金残高*2



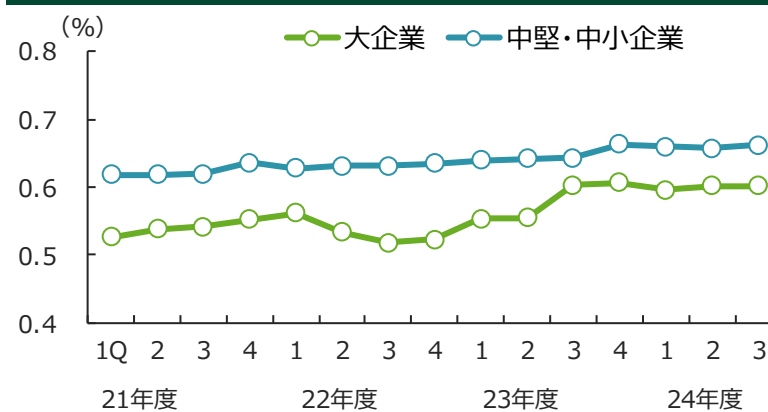
預金残高



法人向け平均貸出金残高*2,3



法人向け貸出金スプレッド*2,4

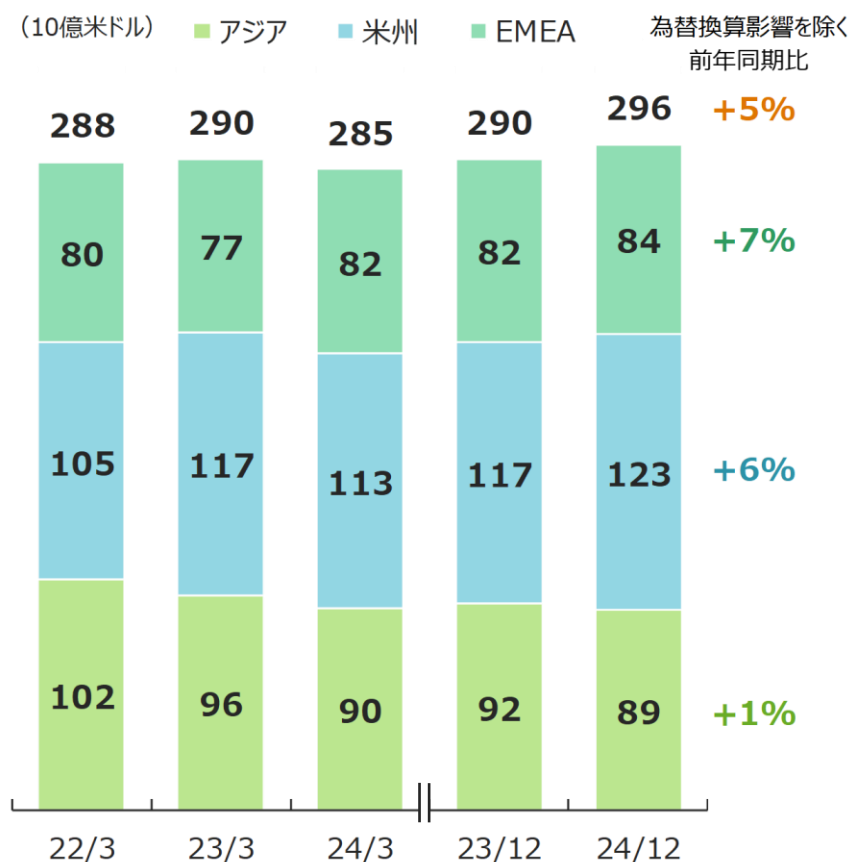


*1 BC単体 *2 内部管理ベース *3 四半期平残、政府向け等を除く。中堅・中小企業はエリア企業向けを除く
*4 ストックベース、政府向け等を除く

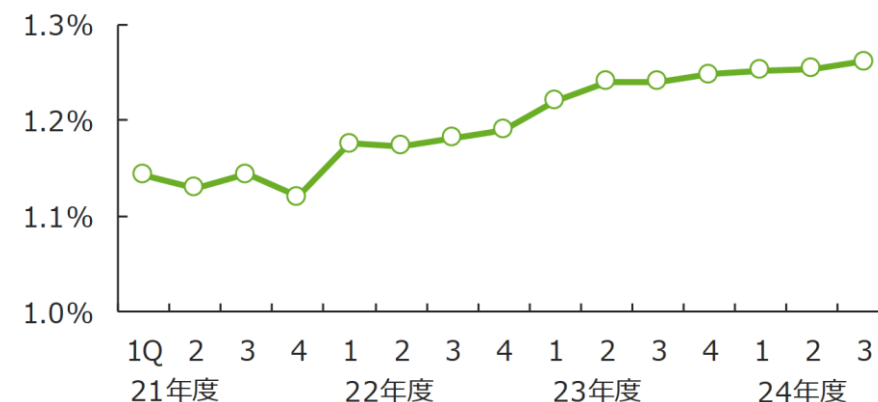
決算期末の資金需要の高まりに伴い、欧米を中心に貸出金残高は増加

低採算アセット削減と選別的な新規取組を通じたROE重視の運営によって貸出金スプレッドの改善は継続

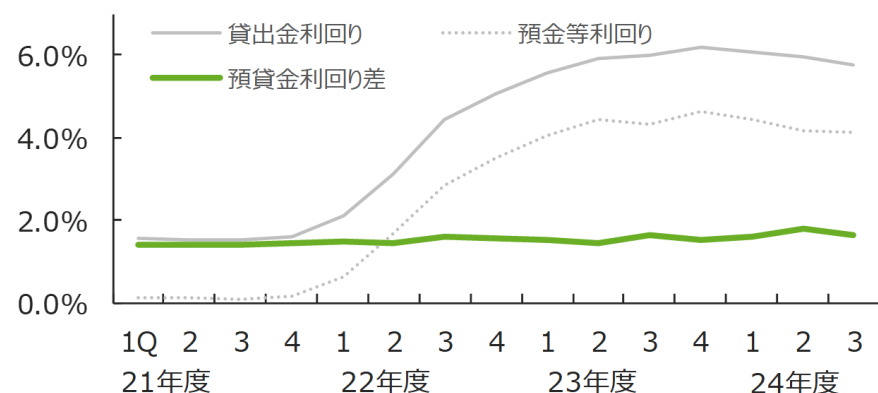
貸出金残高



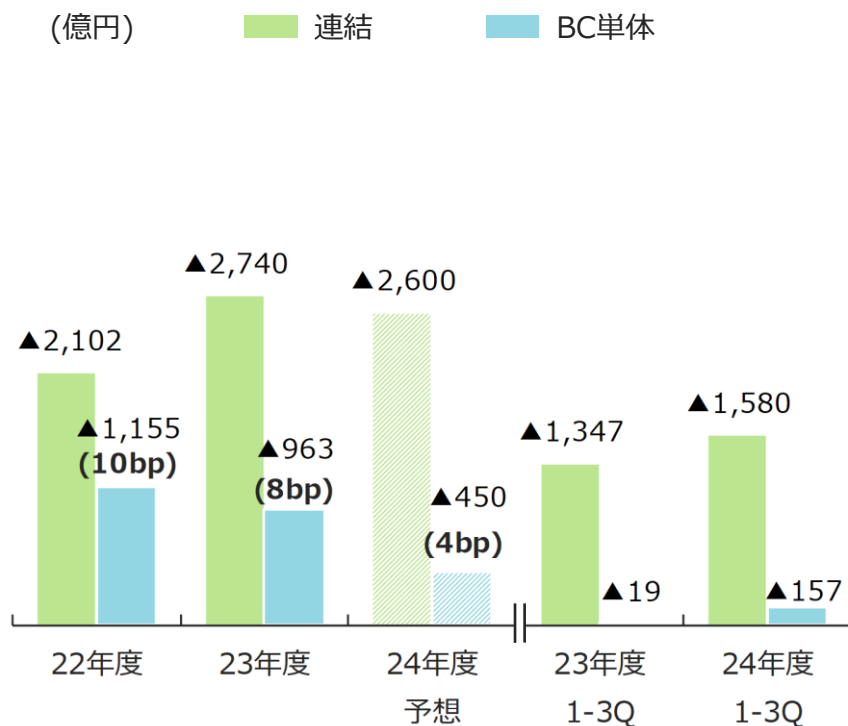
貸出金スプレッド*2



預貸金利回り差



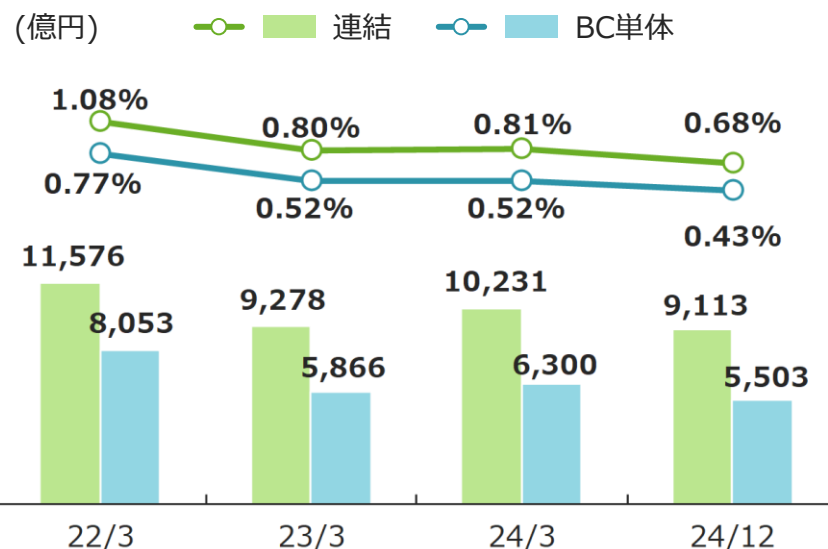
与信関係費用



連単差の主な内訳 (概数)

(億円)	24年度1-3Q	前年同期比
SMCC	▲ 980	▲ 60
うちSMBCCF	▲ 560	▲ 20
海外銀行現法	▲ 440	▲ 210
SMICC	▲ 210	▲ 40

不良債権比率^{*1}・残高



不良債権内訳 (連結) ^{*2}

	(億円)	(億円)	(億円)
国内	5,587	6,511	4,713
アジア	2,197	2,099	2,086
米州	677	845	946
EMEA	816	776	1,366

その他要注意先 (除く要管理債権)

	(兆円)	(兆円)	(兆円)
BC単体	1.8	1.8	1.9

総与信末残

	(兆円)	(兆円)	(兆円)
連結	116	126	134
BC単体	113	120	127

*1 不良債権比率 = 銀行法および再生法に基づく債権残高 (除く正常債権) / 総与信

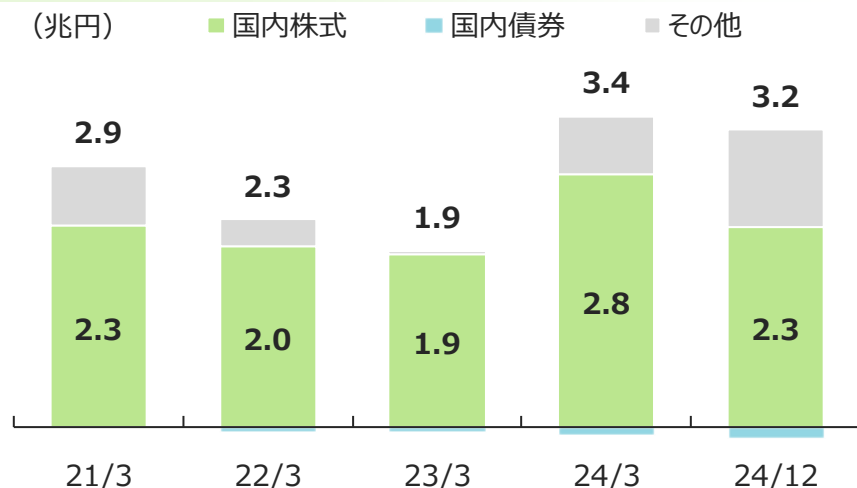
*2 内部管理ベース

■ 其他有価証券の内訳（連結）

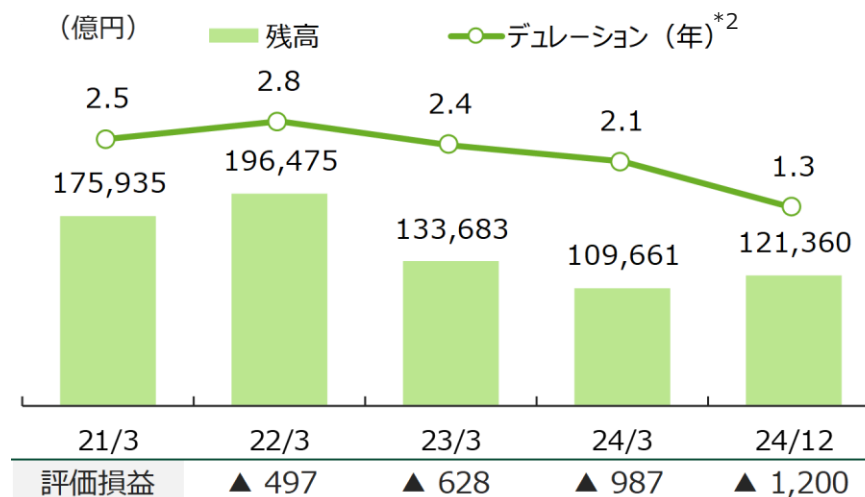
(億円)	残高		評価損益	
	24/12末	24/3末比	24/12末	24/3末比
満期保有目的	2,594	+253	▲40	▲26
其他有価証券	401,034	+39,706	32,172	▲1,759
国内株式	34,001	▲7,197	22,519	▲5,851
国内債券	119,317	+11,713	▲1,221	▲219
うち国債	90,718	+15,245	▲545	+4
その他	247,717	+35,190	10,873 ^{*1}	+4,311
うち外債	190,983	+22,621	▲6,686	+220

ヘッジ取引も活用し、リスク量はコントロール

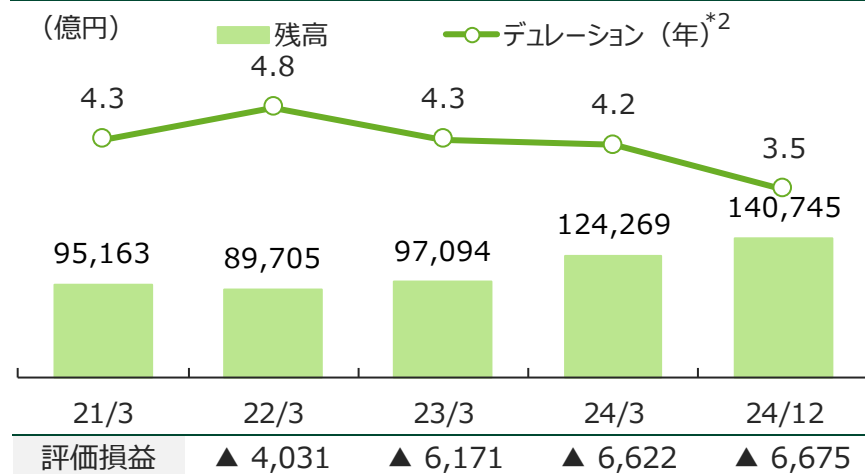
■ 評価損益の推移



■ 円債（BC単体）



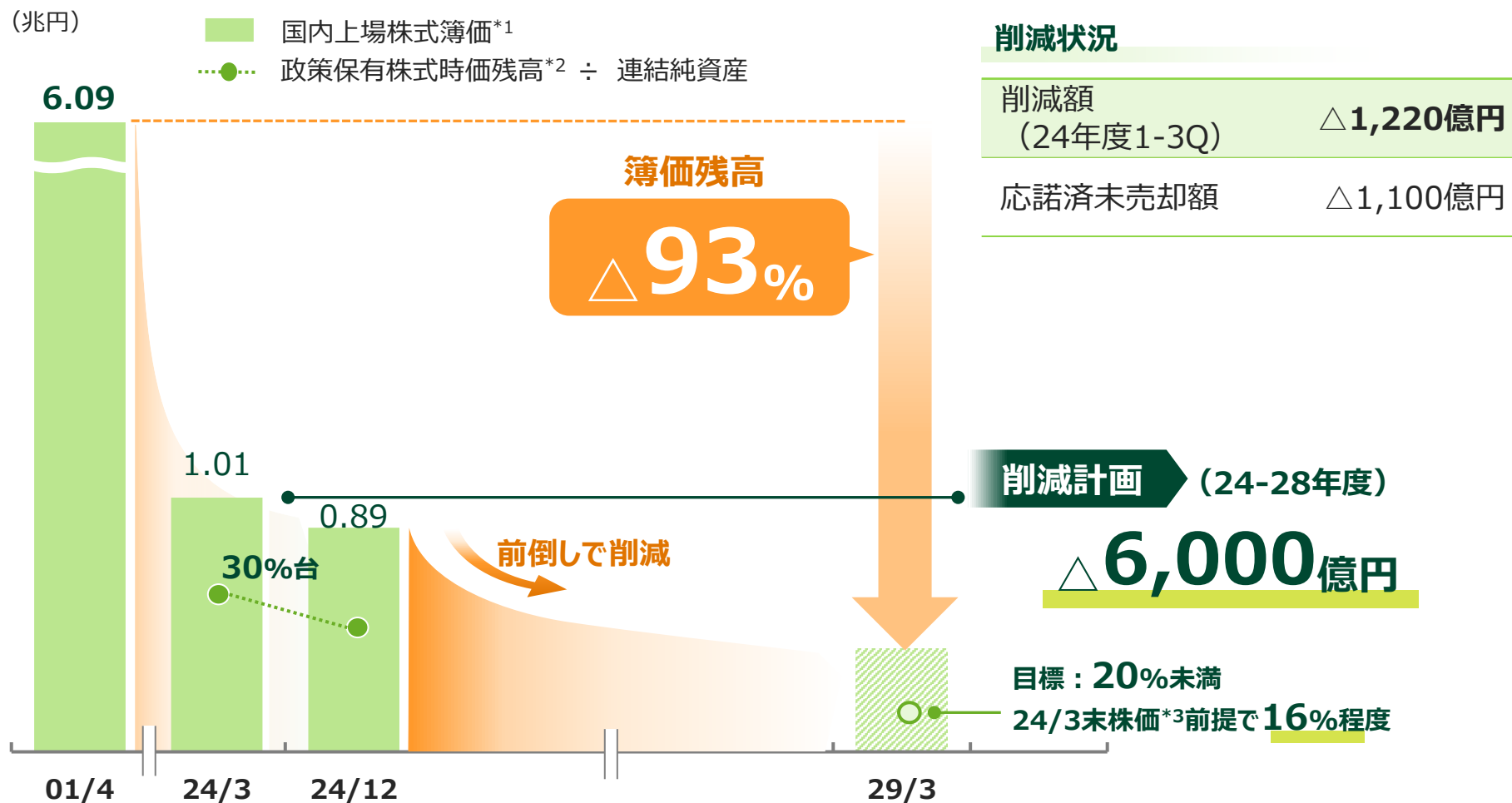
■ 外債（BC単体）



*1 外国債券との差額は外国株式等 *2 内部管理ベース。ヘッジ会計適用分・満期保有分を除く、私募債を含まず

24年度1-3Qの削減実績は△1,220億円

5カ年△6,000億円の目標に対し、標準進捗を上回るペースでの削減を実現



*1 20/3末以降の業務提携目的の出資を除く *2 有価証券報告書に記載される「みなし保有株式」の残高を含む

*3 24/3末の日経平均株価@40,369円

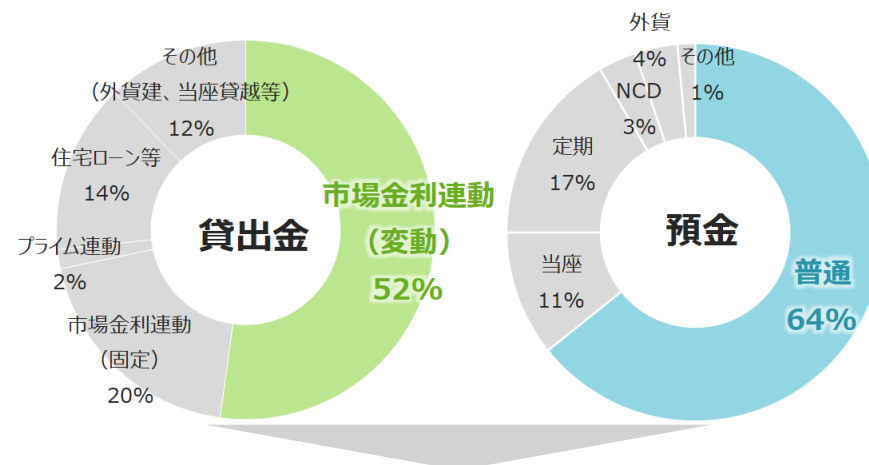
連結B/S

() 内は24/3末比

貸出金	預金
113.4兆円 (+6.4兆円)	188.3兆円 (+8.7兆円)
国内貸出金 ^{*1} 67.0兆円	預貸率 60.2%
有価証券	国内預金 ^{*1} 130.9兆円
41.2兆円 (+4.1兆円)	譲渡性預金 (NCD) 16.2兆円
国債 9.1兆円	その他
外国債券 19.1兆円	107.3兆円 (+6.4兆円)
その他	純資産
156.2兆円 (+5.2兆円)	15.3兆円 (+0.5兆円)
現預金 74.5兆円	
日銀当座預金 ^{*1} 56.6兆円	

総資産 310.9兆円 (+15.6兆円)

預貸金の構成比 (BC単体) ^{*2}



円金利の上昇による資金利益影響 (B/S不変前提)

24/3 0-0.1%	24/7 0.25%	25/1 0.50%	+0.25% あたり
+1,000億円	+1,000億円	+1,000億円 ^{*3}	

試算の前提

市場連動貸金	+25bps
短プラ連動	+25bps
固定貸金	+25bps
国債	+25bps
日銀当預付利	すべて+25bps
普通預金	+10bps
定期預金	+10bps

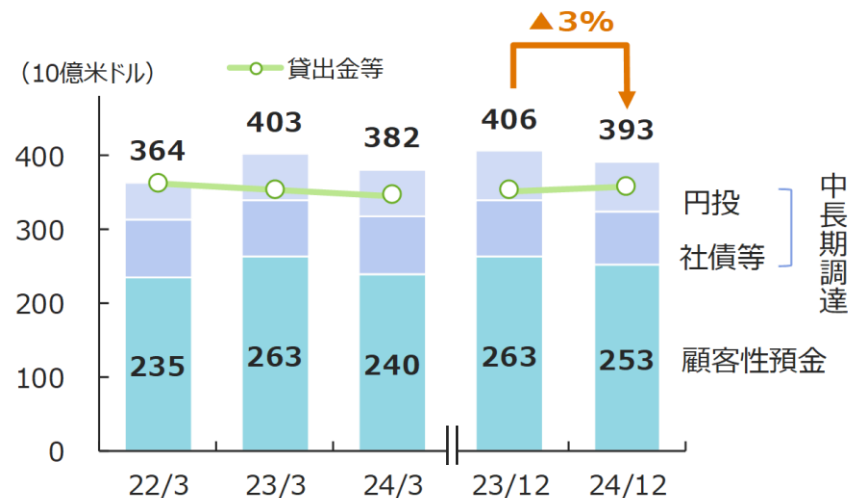
外貨B/S *1,2

(10億米ドル、()内は24/3末比)

貸出金	顧客性預金 (含む中銀預金)
357 (+12)	253 (+13)
その他	中長期調達 (社債、円投等)
138 (▲0)	140 (▲2)
外債、NCD	CD/CP
92 (+8)	88 (+6)
	インターバンク (含むレポ)
	106 (+3)

資産・負債 587 (+20)

外貨ファンディング



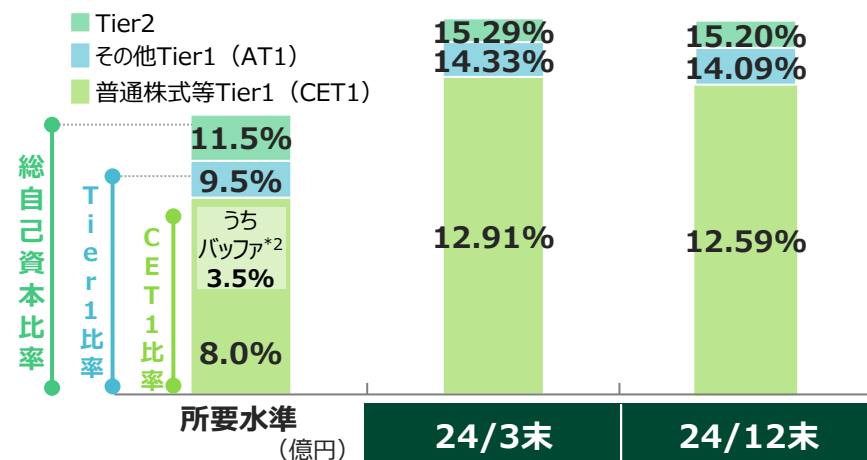
(参考) 外貨金利の変動影響

預貸金

- 貸出金・預金とも、大宗は基準金利連動
- 一部、金利感応度の低い流動性預金によって
外貨金利±1.0%で資金利益±200億円

自己資本比率(規制基準)^{*1}

規制基準



項目	24/3末	24/12末
総自己資本	141,979	145,704
Tier1資本	133,116	135,074
うちCET1資本	119,926	120,732
Tier2資本	8,863	10,629
リスクアセット	928,486	958,419

バーゼルⅢ最終化基準

CET1比率	10.9%	10.7%
除くOCI	9.9%	10.2%
CET1資本 ^{*3} (兆円)	10.2	10.7
リスクアセット ^{*3} (兆円)	102.3	105.1

その他の規制比率

	24/12末	所要水準
外部TLAC比率		
リスクアセットベース	24.09%	18.0%
レバレッジエクスポージャーベース	9.92%	7.10%
レバレッジ比率	5.03%	3.7%
LCR (24年度3Q平均)	135.0%	100%

*1 バーゼルⅢ最終化は24/3末より段階適用開始。29/3末に完全実施される予定

*2 資本保全バッファ-2.5%+G-SIBsバッファ-1.0%。カウンターシクリカルバッファ (CCyB) は勘案せず

*3 バーゼルⅢ最終化・除くOCI

事業部門別実績①

Plan for
Fulfilled Growth

■ リテール

- 金利上昇に伴う預金収益増加と、好調な資産運用・決済ファイナンスビジネスにより業務粗利益・業務純益ともに増加
- 業務粗利益の増加に加え、コストコントロール施策の着実な積み上げにより、経費率は改善

(億円)	24年度 1-3Q	前年 同期比 ^{*1}
業務粗利益	10,129	+923
預貸金収益 ^{*2}	1,035	+214
資産運用ビジネス	2,492	+290
決済ビジネス	4,087	+270
コンシューマーファイナンス	2,274	+113
経費	▲ 8,107	▲ 406
(経費率)	80.0%	△3.6%
業務純益	2,055	+508

	23年度	24年度 1-3Q	中計目標
AM・外貨残高 (兆円)	17.2	19.4	18
コンシューマーファイナンス残高 (兆円)	2.6	2.7	3
Olive獲得件数	24/11 : 350万件突破		

■ ホールセール

- 貸出金増加と預貸金利回り差改善により預貸金収益は大幅に増加、ファイナンス関連の非金利収入も好調
- コーポレートアクションの活発化により証券ビジネスも好調で、業務粗利益・業務純益ともに増加

(億円)	24年度 1-3Q	前年 同期比 ^{*1}
業務粗利益	6,717	+841
預貸金収益	3,043	+526
外為・為替手数料	1,048	+37
SMBC シンジケーション	389	+65
ストラクチャードファイナンス	318	+59
不動産ファイナンス	119	+11
証券	645	+154
経費	▲ 2,440	▲ 140
(経費率)	36.3%	△2.8%
業務純益	5,200	+781

	23年度	24年度 1-3Q	中計目標
スタートアップ向け投融資 (累計・億円)	792	1,618	1,350

*1 内部管理ベース（為替影響等調整後） *2 コンシューマーファイナンスを除く

■ グローバル

- 預貸金収益やローン関連手数料が牽引し業務粗利益は増加も、インフレを主因に経費の増加トレンドは継続
- SMBCACにおける保険金受領（23年度：400億円*2）の剥落もあり、業務純益は減益

(億円)	24年度 1-3Q	前年 同期比*1
業務粗利益	10,757	+547
預貸金収益	5,328	+225
ローン関連手数料	2,192	+234
証券	632	+5
経費	▲ 6,906	▲ 768
(経費率)	64.2%	▲ 4.1%
持分法投資損益	604	▲ 262
業務純益	4,686	▲ 426

	23年度	24年度 1-3Q	中計目標
米州本部業務純益 (百万米ドル)	1,583	1,181	+500

■ 市場

- 機動的なポートフォリオ運営により、着実にバンキング収益の蓄積
- S&Tビジネスも、証券を中心に顧客フローを捉えて順調に推移し、業務粗利益・業務純益ともに増加

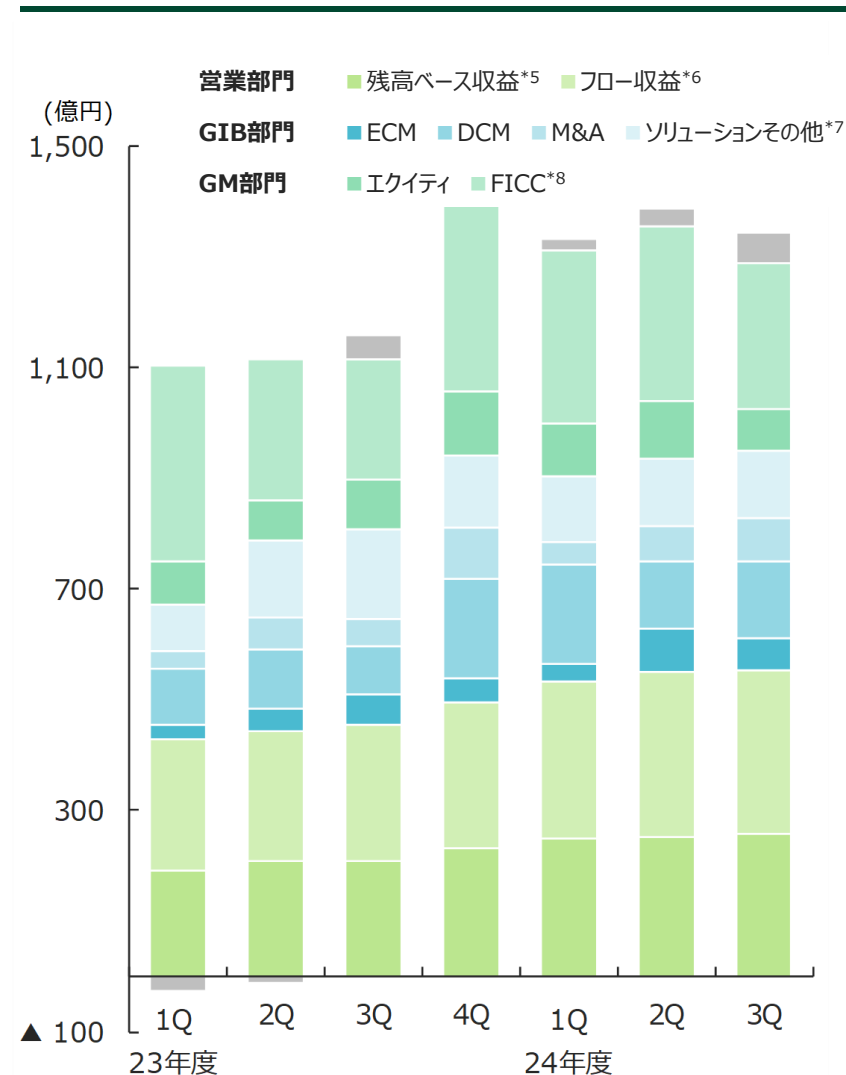
(億円)	24年度 1-3Q	前年 同期比*1
業務粗利益	5,358	+1,146
SMBC	3,518	+896
SMBC日興	1,181	+44
経費	▲ 1,484	▲ 136
(経費率)	27.7%	△ 4.3%
業務純益	4,133	+1,030

	23年度	24年度 1-3Q	中計目標
海外証券業務純益 (億円)	362	190	490

業績

(億円)	23年度	24年度 1-3Q	前年 同期比
純営業収益	4,735	4,066	+725
販売費・一般管理費	▲4,019	▲3,328	▲426
営業利益	716	737	+299
うち営業部門	101	263	+201
GIB部門*2	218	175	+70
GM部門*3	455	265	▲55
経常利益	802	773	+295
当期純利益	576	753	+420
預り資産残高*4 (兆円)	82.7	83.6	

純営業収益



*1 SMBC日興アメリカおよびSMBC Capital Marketsなどの利益を含む内部管理ベース

*2 グローバル・インベストメント・バンキング部門 *3 グローバル・マーケット部門 *4 SMBC日興単体

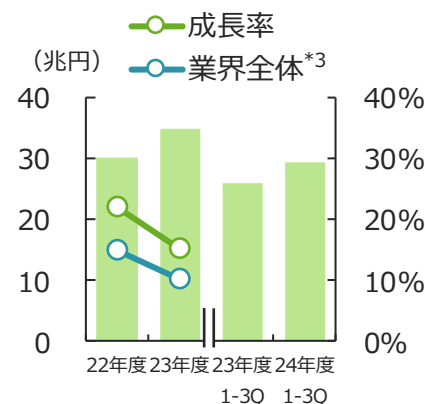
*5 投資信託・保険の代行手数料、FW報酬等 *6 株式委託手数料等

*7 バランスシートやデリバティブを活用したソリューションビジネス等 *8 Fixed Income, Currency and Commodities

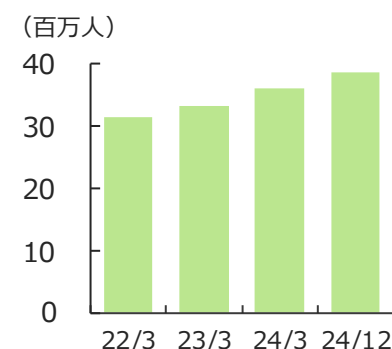
業績

	23年度	24年度 1-3Q	前年 同期比
(億円)			
営業収益	9,017	7,187	+514
うち買物手数料	2,284	1,934	+244
ファイナンス	3,064	2,438	+153
うちSMBCCF	1,470	1,172	+77
信販・収納代行	811	613	+2
信用保証収益	774	625	+45
営業費用	▲7,858	▲7,196	▲1,487
うち貸倒費用	▲1,098	▲1,013	▲69
うちSMBCCF	▲540	▲587	▲38
利息返還費用	▲230	▲990	▲990
債務保証費用	▲160	▲75	△11
経常利益	576	▲25	▲815
うち営業外収益	12	49	+33
営業外費用	▲595	▲64	△125
親会社株主純利益	212	249 ^{*1}	▲278
不良債権残高 ^{*2}	989	1,077	
(同比率)	10.04%	10.31%	
利息返還損失引当金 ^{*2}	837	1,701	
(引当年数)	4.0年	10.1年	

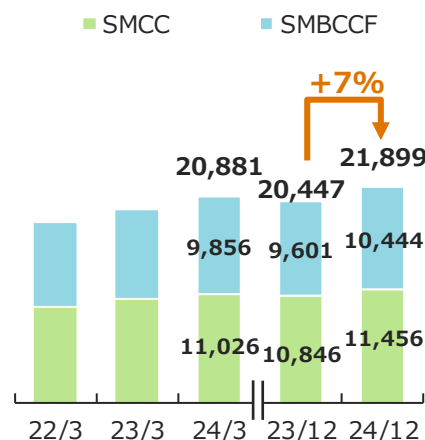
買物取扱高



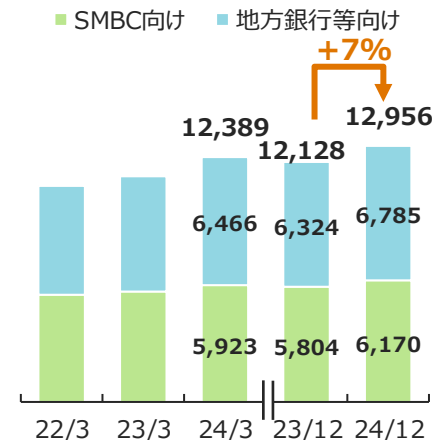
会員数



ファイナンス残高^{*4}



保証残高^{*2}



*1 SMBCCFとの合併に係る抱合せ株式消滅差益+466億円 (FG連結上は消去)、過払債務の抜本的処理影響▲880億円

を除いて663億円 *2 SMBCCFのみ

*3 日本クレジット協会「クレジットカード動態調査」ショッピング信用供与額 *4 SMBCCF再編影響を遡及反映

本資料における計数、表記の定義

SMFG	三井住友フィナンシャルグループ (持株会社)
SMBC	三井住友銀行
SMBC信託	SMBC信託銀行
SMFL	三井住友ファイナンス&リース
SMBC日興	SMBC日興証券
SMCC	三井住友カード
SMBCCF	SMBCコンシューマーファイナンス
三井住友DS	三井住友DSアセットマネジメント
SMBCAC	SMBC Aviation Capital
SMICC	SMFG India Credit Company
主要現地法人	SMBCバンクインターナショナル、 SMBCバンクEU、三井住友銀行（中国）
連結	三井住友フィナンシャルグループ連結
BC単体	三井住友銀行単体
経費（BC単体）	臨時処理分を除く
業務純益	一般貸倒引当金繰入前
親会社株主純利益	親会社株主に帰属する当期純利益
リテール事業部門（RT）	国内の個人向けビジネス
ホールセール事業部門（WS）	国内の法人向けビジネス
グローバル事業部門（GB）	海外ビジネス
市場事業部門（GM）	市場関連ビジネス

本資料には、当社グループの財政状態および経営成績に関する当社グループおよびグループ各社経営陣の見解、判断または現在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」が含まれております。多くの場合、この記述には、「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、この限りではありません。また、これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実際の業績は、本資料に含まれるもしくは、含まれるとみなされる「将来の業績に関する記述」で示されたものと異なる可能性があります。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実性としては、以下のようなものがあります。国内外の経済金融環境の悪化、保有する有価証券の時価の下落、不良債権残高および与信関係費用の増加、当社グループの国内外におけるビジネス戦略が奏功しないリスク、提携・出資・買収および買収後の経営統合が奏功しないリスク等です。こうしたリスクおよび不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業績に関する記述」を過度に信頼すべきではありません。当社グループは、いかなる「将来の業績に関する記述」について、更新や改訂をする義務を負いません。当社グループの財政状態および経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F等の米国開示書類、当社グループが公表いたしました各種開示資料のうち、最新のものをご参照ください。

為替レート（月末TTM）

	23/12末	24/3末	24/12末
1ドル	141.83円	151.33円	158.15円
1ユーロ	157.08円	163.24円	164.86円

24年度の計画前提

政策金利	日本	0.25%
	米国	4.0%
為替	1ドル	140円